

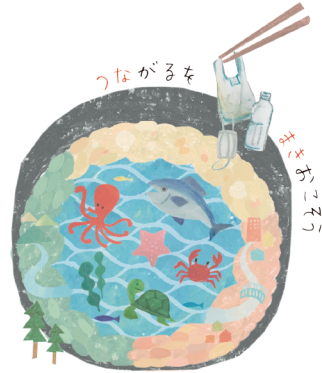
みやぎ海つなぎアクション

2022年活動報告



つながるを、まきおこそう。

みやぎ海岸美化協議会



みやぎ海つなぎアクション
2022

ロゴの意味

みやぎ海岸美化協議会は宮城県沿岸部で
ビーチクリーンを中心に活動している各団体と繋がり
課題の共有をし、それに対してどのようなことを伝え
解決方法として行動にうつさせるかをデザインすること

「つながる」を「まきおこそう!」

みんなを「巻き込む」=のり巻きの連想
海ゴミは、街や、森、砂浜から流れ込みます
その中央に位置する「海」
その中の宮城の海産物や、海の生き物を守ること
それがこのロゴの意味です

Meaning	ロゴの意味	01
Purpose	2022年 私たちが目指したカタチ	03
Interview	みやぎ海岸美化協議会メンバー&インタビュー	05
Radio collaboration	TBC東北放送「みんなあつまれ!学校ラジオ」	15
Clean record	各地のビーチクリーン活動の記録	16
Newspaper	河北新報 掲載記事広告	17
EXPO	みやぎ海つなぎEXPO	23
Anytime beachclean	いつでもビーチクリーン	24
Learning	ALIAVE / 神奈川研修 / 福井研修	25
Class	海洋教育授業	26
Investigation	海洋調査	27
Exhibition	エスパル仙台 活動報告展示会	28
Movie	これまでの記録映像	29

Title：気合のヤクルト

動画クリエイター
kei sato

ミュージシャン、ダンサーの映像作品などに多く関わる若手クリエイター。その作品は叙情的なものから爽快感、疾走感溢れるものまで幅広い。また、フォトグラファーとしても活躍中。



2022年

私たちが目指したカタチ

1. つながる

私たちは暮らしの中で「海と人をつなぐ」ということを大切に東日本大震災からの10年を歩んできました。宮城県の各沿岸部には同じ想いで活動している市民団体がいくつも存在します。まずはその「団体」と「思い」とつながること。

2. 共通課題の解決

宮城県沿岸部で共通する課題、流木や漁具、海洋プラスチックの処理費用や体制など、地域だけでは解決できない困難な課題を見つけ出し、その問題を解決すること。

3. つたえる

課題解決のための、情報共有と環境教育を【みやぎ海岸美化協議会】として行い、自治体や民間企業、地元報道機関も一体となり、沿岸部の団体の想いを1つにします。これにより広く問題が自分ごととして認識され、暮らしを変化させる機運が人の輪として定着するよう活動を繰り返し広げること。

わたしたちは
また「海と人をつなぐ」ことを目指します

みやぎ海岸美化協議会は
共通認識を持ち沿岸部で活動する人と
ともに課題解決へと進みます



つながるを、
まきおこそう



「ビーチクリーンが日常になる社会」の実現に向けて

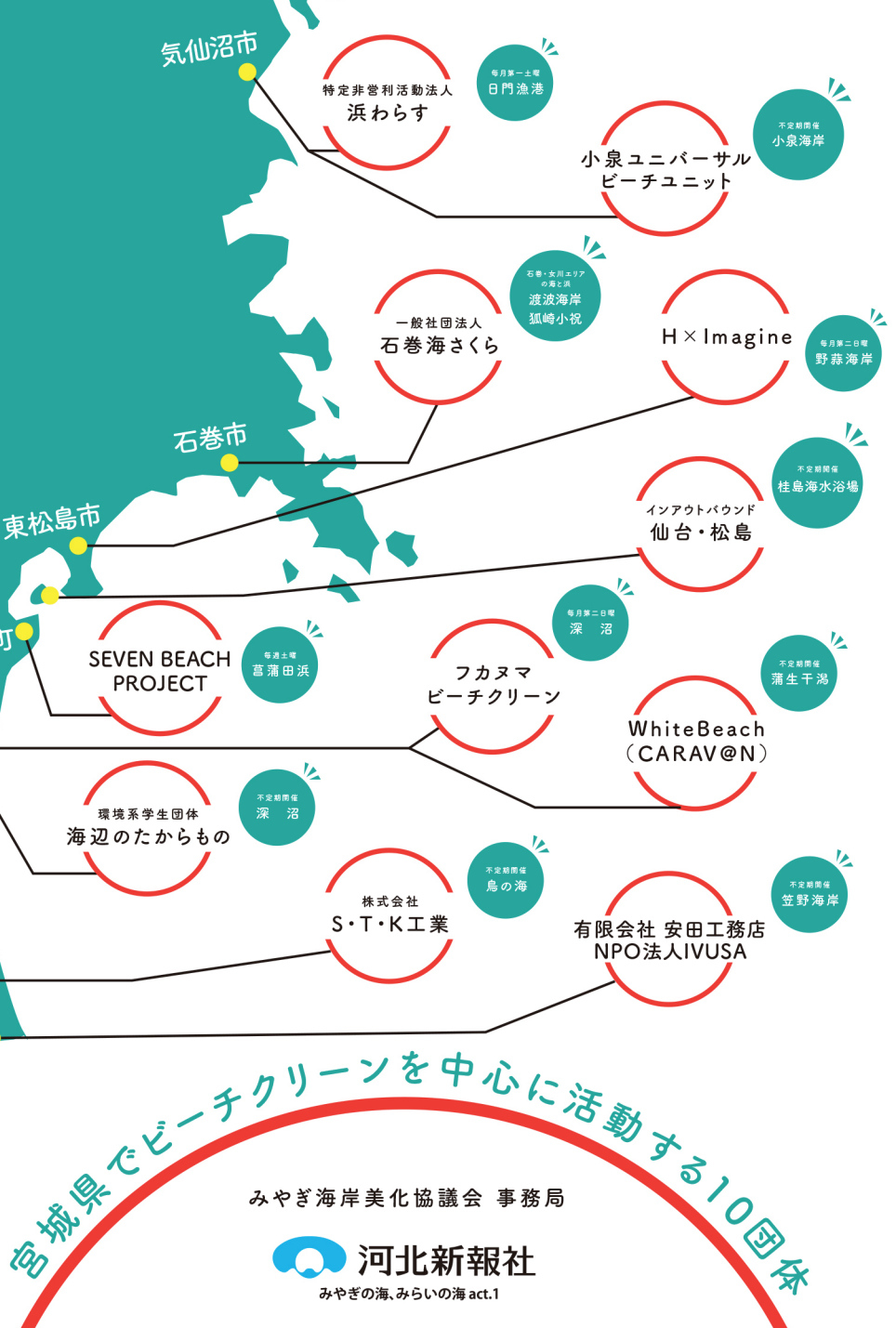
これだけたくさんの方の地域の人と、そして様々なバックグラウンドを持った人と活動をできて、それが単純に面白いと感じていますし、このつながりに感謝をしています。そして、何よりもこの広い様々な現場で実際に活動をしている人達の集団であることが「みやぎ海岸美化協議会」の最大の魅力であり強みであると感じています。

元々はコロナにより私が元々活動している七ヶ浜町菖蒲田浜の海開きがされなくなり、それでも良い環境を未来に繋ぐとビーチを徹底的に綺麗にした結果、海ゴミを集めすぎて処理費がかかる、と怒られたところから、この現場の仕組みのなさに問題視を感じて始めた活動でしたが、2年経ち感じることはこの「みや

ぎ海岸美化協議会」という活動の価値とその難しさです。SDGsが広く叫ばれている中で、海岸の現場での問題は日本中どこでも同じように問題を抱えており、もし宮城県で地方型のビーチクリーンと海ゴミ処理の仕組み化を実現することができれば、多くの地方で参考になると思っており、その社会的価値を強く感じています。

しかし一方で、本気で「ビーチクリーンが日常になる社会」に向けた仕組みの実現に向きあうと「学校教育」「予算の構築」「連携と仕組みの構築」など多岐分野にわたる活動が連携しあっており難しさを感じますが、結局は一つ一つ積み上げない限

り、理想を下支えする仕組み化は実現しません。これまでの活動を元に3年目では主に「いつでも誰でもビーチクリーンがストレスなくできる仕組み」の実現に向けてより一層活動を起こしていきます。あなたも是非、この活動の一員になってください。今後も「みやぎ海岸美化協議会」をよろしく願っています。



宮城県でビーチクリーンを中心に活動する10団体

みやぎ海岸美化協議会 事務局

河北新報社
みやぎの海、みらいの海act.1

「みやぎ海岸美化協議会」メンバー

みやぎ海岸美化協議会 会長 / SEVEN BEACH PROJECT
久保田 靖朗 (くぼた やすあき)

① 1982年10月22日 ② 千葉県流山市
③ 駅伝/国際NGO活動/俳優/バンド/麻雀/ビリヤード
④ ハクナマタタ ⑤ LOVE & FERR/星の王子様
⑥ フォレストガンブ ⑦ 豆腐

① 生年月日 ② 出身地 ③ 学生時代の活動 ④ 座右の銘 ⑤ おすすめの本 ⑥ おすすめの映画 ⑦ 好きな食べ物

深沼ビーチクリーン

■ 海洋ゴミと未来

深沼ビーチクリーンでは、東日本大震災による津波で失われてしまった荒浜地域に、再び足を運んで欲しいという思いが出発点となっている活動です。

そのため、海洋ゴミといった環境問題に重点を置いておらず、誰もが自分のペースで、海辺での時間を楽しみながら活動していただけるような取り組みを目指しています。参加者の中には、毎回ザルを持参し、マイクロプラを集めたり、学校の課題として、海洋プラゴミを調べたり、企業のCSR活動として参加したりと、課題を持って参加される方もいらつしやう、こうした問題への関心の高さも実感しています。

2022年度は、中学校での探求学習講師や、小学生からのインタビュ

ーのラジオ番組、また、一般財団法人日本国際協力センター（JICE）からの依頼で、12月には東ティモール及びASEAN諸国の学生・外交関係者、3月にはフイリピン の学生・外務省関係者向けに、深沼ビーチクリーンや海辺の環境問題について、まちあるきをしながら伝えるツアーを実施しました。

こうした取り組みを通して「未来」を考えるうえで大切なのは、

① 海は世界と繋がっている
② これからの世代への継承が必要

という2つの視点が大切だと考えています。世界的に関心の高い課題となるであろう海の環境問題について、こうした「みやぎ海岸美化協議会」といった顔の見える関係を構築できていることは、とても重要だと思えます。

ただ、私自身も含め、自分たちの活動で手一杯で、なかなか計画的な運営や情報発信が難しい現状を鑑みると、そうした事務局機能がある程度、専任でできるような体制づくりが今後の課題だと感じています。

主語を「私」から「地球」に

■ 世界中でゴミを捨てる生物は人間だけ

あなたの部屋にゴミを捨てられるか？
住んでいるまちのゴミが捨てるか？

幸い私たちは海のそばに暮らして海に癒されながら世界中の人が捨てたゴミを拾えます。漁師に魚をお裾分けしてもらったり、海からの恩恵を肌身に感じながら拾えます。でも拾っているのはあなたの捨てたゴミかもしれません。

このままでは海の魚より海中のゴミの方が多くなるかも知れない。それを子供たちは学校の授業で学びます。でも大人たちはほとんど知りません。それを子供たちに教えて終わりで良いので

しょうか？

「君たちが今変える事が出来たら、未来の海のゴミは減るよね」となんて未来になすり付けて良いのか？今すぐ取り掛かる事を危機感持って動けるのはやはり海のそばに住んでいる私たちだと思っています。

漁師たちから気候変動による危機的変化を臨場感を持って耳にするのは貴重な学びの機会でもあります。その声を拡散する事で本当の意味で質の良い学びの機会になる事、未来への危機感への解像度をどう上げていくか。友人であり隣人である私たちが彼らの代わりに出来る事があるなら、それは人間の未来のために。



みやぎ海岸美化協議会 / フカヌマビーチクリーン
庄子 隆弘 (しょうじ たかひろ)

① 1973.年11月12日 ② 宮城県仙台市



① 生年月日 ② 出身地 ③ 学生時代の活動 ④ 座右の銘 ⑤ おすすめの本 ⑥ おすすめの映画 ⑦ 好きな食べ物

みやぎ海岸美化協議会 / H×imagine -ひまじん- CEO
関口 雅代 (せきぐち まさよ)

① 1975年9月21日 ② 東京都中野区 ③ クラブ通い/パリピ/文化祭実行委員/美術部/NYかぶれ ④ 思いやり ⑤ 銀河鉄道の夜 / ノーザンライツ / 一日一生 / 都市と地方をかき混ぜる ⑥ ビックリトルファーム / プラネタリー / プリティーウーマン / 嫌われ松子の一生 / 銀河鉄道の夜 (アニメ版) / ロードオブザリング / グーニーズ / ユージュアルサスペクツ ⑦ ネギ/ラムチョップ / 刺身 / 肝刺 / 鶏肉



① 生年月日 ② 出身地 ③ 学生時代の活動 ④ 座右の銘 ⑤ おすすめの本 ⑥ おすすめの映画 ⑦ 好きな食べ物

ゴミなんて拾いたくない

ずーっと溜まっていくゴミ

「何に使われたかわからないゴミなんて拾いたくない」今もそれは変わりませんが、向き合う気持ちは変わりました。どこかの遠い国で起きていると思っていた、ウミガメがビニールを食べている、という事実は、今住んでいるすぐ近くの定置網漁に掛かったウミガメで証明されました。

そしてそういった、プラスチックには有害物質が付着する、とか一般人の目にはみえないところ、何か恐ろしいことが起き始めているかもしれないと想像すると拾わないでこのままにしていたら本当に海がゴミ箱になって生き物や私たちに悪い影響が出てしまうと思いました。ゴミが出れば、それは海や空気中、川や山、地球のどこかにずーっと溜まっていきます。

これまでのゴミもこれからのゴミも。そこからどれだけのゴミを拾うことができるか、なくすことができるか。残念ながら私たちがビーチク

子どもたちの自然体験活動について

2011年3月11日

わたしたちは生涯忘れることができないくらいに経験をしました。

あの真っ黒い海を目の前になす術がありませんでした。あれから12年。海はその豊かさと美しさを取り戻しつつあります。そして、子どもたちは成長し、震災を知らない子どもたちに変化しています。

子ども達がこの海のまちな自然・人・暮らしに関わり、その中で子ども達が本来もっている「生きる力」「生き抜く力」を引き出し、たくましく育っていくように。

そして、体験を通して海で安全に楽しむ為の知識や地域の魅力を再確認し、自分の暮らす地域に誇りをもってほしい。そんな願いを込めて、2013年から子どもたちの自然体験活動を行ってきました。【子どもに託す前に大人がやってみせる！

わたしたちがフィールドにしている「豊かな海」を守るため、毎月第一土曜日にビーチクリーン

リーンを行ったところで拾えるゴミはその中のほんの僅かです。それは本当に悪いものか。知りたくないことであり、知らなければならぬことです。

このようにゴミの話をしていくと、ハッピーでない話になっていき、ビーチクリーンを誰がやりたいと思うでしょうか。この文章もきつと意識の高い方にしか読まれないと思います。しかし、そうでもないかもしれません。

私は仕事やボランティアでビーチクリーンをする機会がありますが、そこに参加する方が徐々に増えているような気がします。それから小学校の授業で海洋ゴミについて話す機会があり、その際に「ビーチクリーンした人？」と問うと「したい！」と言う子が何人もいました。

山の方の学校に行くこともありますが、海洋ゴミについてレポートを書くなど調べてレポートを書いている子もいました。最近ではニュースや学校で海洋ゴミについて知る機会が増えているのだと思います。

知ること、教育というのはつく

を実施しています。継続的に行うことで気軽にビーチクリーンに参加するきっかけにもなっているようです。また、地元小学校の海洋教育の一環で、海洋ゴミの現状などビーチクリーンの取組を伝える出前授業も行っています。

これまで、沿岸部の子どもたちに伝えることが多かったのですが、2022年度は、宮城県とみやぎ海岸美化協議会が連携し、

海ゴミ環境教育学習を実施講師として内陸部の小学校にも出向き、出前授業を行うことができました。

子どもたちは海が見えない場所もまた海に繋がっていることを再認識し、漂着ごみの標本にもとても興味をもってくれました。実際に海で活動しているわたしたちが伝えることで、インターネットでみたことがある遠い世界で起こっていることではないことを実感し、決して他人事ではないことを感じたことかと思えます。SDGSや持続可能な社会という言葉に困ま

づく大事で自身や未来を守ることに繋がる力だと実感しています。

みやぎ海岸美化協議会は、宮城沿岸各地の団体や個人が持っていることを共有し、ビーチクリーンをすることだけでなく、その自身や未来を守ることに繋がる力を強く発揮できる組織だと思っています。毎日のように海で仕事をする人、海のもの食べている人、海で遊んでいる人、海も山も好きな人。

いつも近くで自然を感じている人たちがです。今日の波は：風は：変化に気づくのも早い。自然がしゃべることができない分、人間が他の生き物や自然をよく観察しておくことが重要だと思えます。

それが共存のひとつでもあるなと。ゆっくりどう変わっていく自然に気付けるか。

大人も子どもも自然とともに生きていくこと、生かされていることを自分ごととして捉えられるればいいと思います。

れながら、そのことを学ぶことが必須になっている子どもたちは十分に理解しています。しかしながら、今を生きるわたしたち大人はどうでしょうか。子どもたちより環境問題に関して知らないことの方が多いかもしれません。

子どもたちに未来を託す前にわたしたち大人が行動し、「わたしたちも頑張るよ！一緒に頑張ろう！」と背中をみせていくことがわたしたちの役目なのではないでしょうか。教える「教育」ではなく共に育つ「共育」でありたいと私自身、強く感じていることでもあります。自身も学ぶことを楽しみながら、子どもたちと一緒に歩んでいきたいです。



みやぎ海岸美化協議会 / NPO法人浜わらす
天澤 寛子 (あまさわ ひろこ)

- ① 1979年3月19日 ② 宮城県泉仙沼市
- ④ 一日一笑 ⑥ 美しき緑の星
- ⑦ ふのり



みやぎ海岸美化協議会 / NPO法人浜わらす
畠山 友美子 (はたけやま ゆみこ)

- ① 1986年8月25日 ② 宮城県泉仙沼市
- ④ なし。あまり制限しない。自由に。
- ⑤ 生きもの「なんで？」行動ノート
- ⑥ 夢／黒澤明
- ⑦ あわび



今のまでは自然環境が無くなる

将来、ゴミを食べた魚が増えてくる現実

ずっとビーチクリーンや水中清掃を続けてきてる中で僕たちが便利になることによって自然環境、山や海、生き物たちにすごく負荷がかかっているなど思っています。地球に住んでいる僕らはたくさん生き物たちと共存、共栄していかないと僕たちも生きていけないと思ってます。今は当たり前前に魚や肉を食べ、美味しい水を飲むことができていますが環境変化で当たり前前に飲めてた水や食べ物が食べれない時代が来るかもしれないと言われています。

その中で一人一人の意識を変えて行かないと思ひみやぎ海岸美化協議会の仲間たちと一緒に活動を続けております。

ほとんど海岸には僕たち人間が生活している生活ゴミと言われるプラスチックゴミが1番多いです。特にコンビニやスーパーの周りはすごくゴミが多くそのまま、雨や風によって川に流れ海にたどり着きます。海の上であれば回収できますが海

の底にいつてしまおうとなかなか回収は難しくなります。

日本の沖の海底や世界で一番深いマリアナ海溝にはたくさんゴミが溜まってきていると言われています。そして今問題なのはマイクロプラスチックというのはマイクログラスチックが魚の中加良発見されてきています。次の世代、100年後のこともたちに僕たちは負の遺産をたくさん残そうとしている現実があります。

今ここでもっともたくさんの方が意識を変えれば環境も良くなり次の世代に綺麗で魚がたくさんいる時代をつなげていけると思っています。まずはゴミを捨てない教育を子供達だけでなくおじいちゃん、おばあちゃんたちと一緒にできればと思います。みやぎは沿岸沿いに海が入り組んでいるリアス式海岸がありその入り組んだ先にゴミが蓄積されています。

みやぎ海岸美化協議会では各地でゴミ拾いをし回収するまで行っていますが問題なのはこのゴミ処理費をどこから捻出するかすごく大変な問題で協

議会も立ち上げたのはまさにここを皆さんとクリアしたく立ち上げた団体と僕は思っております。海岸に着くゴミは海外や県外から来るゴミをたくさんあります。でもゴミは関係なくどこからともなくやってきていて僕たちも活動を続けていく中でゴミを回収した後に処理するシステムなどがなく助成金を取ったり、廃棄物処理依頼を自分たちでしたりしています。この問題を一人でも大きいの宮城県民の方に知ってもらい一緒に問題解決をできればと思っております。未来のみやぎ、日本のこともたちに素敵な綺麗な海を残していきたいです。



幼き日の想い出の中にいる頭を離れないイメージ

幼い日の想い出の中に、頭を離れないイメージがある。【いつか、ごみ処理も海岸でのごみ拾いも追いつかなくなり、砂浜にプラごみがあふれた未来で、子ども時代の僕や、僕らの子どもたちが、プラを集めて遊んでいる】

イメージ元は、歴史の教科書に出てきた「札束を積み木のよう遊ぶ子どもたち」だろう。

第一次世界大戦後、ドイツは戦勝国側から莫大な賠償金を課せられた。その支払いのため中央銀行は狂ったように紙幣を増刷した。結果としてハイパーインフレが起こり、中間層がその富の大半を失う。結果として市民は右傾化し、正当な選挙の元でナチスは台頭し、第二次世界大戦に繋がってゆく。

本当に体験したイメージか、勝手に考えた妄想なのか区別もつかない。しかし、20年後の今のイメージを、当然起こる未来として準備を始めている。

大学時代は、環境サークルを立ち上げた。海辺のゴミでさえも、アクセサリーなどのたからものに変えて、海洋ごみ問題と震災復興の両方を解決する。子どもの頃に描いたイメージをポ

ジティブな夢に転嫁させていた

社会人になり現実を見た。ミイラ取りはミイラになり、プラスチックリサイクルする仕事についた。日本各地のリサイクル工場を巡る中で広がっていたのは環境に優しい仕事ではなかった。利権にガチガチで、環境に良いのか悪いのかも怪しく、作業員の健康に悪い作業を、劣悪な労働環境で、様々な国籍のある方々が働く現実だった。クリーンなのは外だけでは、先進国の華やかな暮らしのゴミを被差別敵に押し付ける姿だった。

そんな中で関わり始めた「みやぎ海岸美化協議会」。調査を担当し、宮城県内の様々なビーチクリーン活動に流れ着くごみの種類と発生源を調べてもらった。元々「ゴミ拾い」は終わらない対症療法だと思っていた。誰が出したかもわからないゴミを無償で延々拾わせられる。しかしゴミを丁寧調べるとはつきりわかった。少なくとも宮城では、知らない他国の人が出したゴミは少ない。むしろゴミを拾った場所からすぐ近くに見えるあの漁港の誰かや、河川

敷を歩くあの方々の誰かが出している。そう多い人数でも遠い人でもない。私たちが拾っていたゴミは、私たちが自身が出したゴミだった。

原因が分かると対策も見えてきた。広く一般の方への啓発は効果も低く要らない。どこまでも具体的に、現実的に。一緒に働き、ご飯を食べる目の前の大切な貴方に、伝えつづけていく。ゴミ拾いを善意のボランティアで終わらせず、効率的で効果的な回収方法と、適正な処理やりサイクルまで含めた仕事にしていく。今できる準備として、海洋プラを製品にアップサイクルし、燃料に加工していく技術やビジネスモデルをつくる。仕組みが持続的に回るために地域通貨を発行し、地域に必要な資本主義を再構築し、地域ごとに意思決定を行なっていく民主主義を再構築する。下支えする市町や県の条例も、市民立法で創っていく。国と世界がどうなるかはわからない。行く末は、崩壊しゴミの溢れた海岸かもしれない。それでも私たちは私たちの町で、しなやかに強かに生きてゆきたい。

みやぎ海岸美化協議会 / 株式会社MSC/海辺のたからもの/
荒浜里海ロッジ応援団常吉(法人登記準備中)

島山 紳悟 (はたけやましんご)

① 1994年5月29日 ② 秋田県湯上市 ③ 生まれ育った実家は、右手に日本海、左手に八郎湖、目の前は海と湖を繋ぐ汽水域がありまして、高校までは、ワカサギを釣り、シジミを獲り、水草を植えて、ゴミを拾い、育ちました。大学時代は、震災復興のボランティア活動として、荒浜に関わり始めました。その後、気候変動を訴える運動としてFridays For Future Sendaiを立ち上げ、海洋プラの調査と啓発を行う環境団体海辺のたからものを立ち上げて今に至る。 ④ 動的知性 ⑤ センス・オブ・ワンダー ⑥ この世界の片隅に ⑦ 環境活動家なのに、最近筋トレ始めてしまっていて、罪悪感を感じながら肉と卵を食べて生きています。



みやぎ海岸美化協議会 / 一般社団法人 石巻海さくら
高橋 正祥 (タカハシ マサヨシ)

- ① 1979年11月1日
- ② 宮城県仙台市
- ③ 野球/水泳/スキー/外遊び
- ④ 七転八起 ⑤ 風と波を知る101のcott
- ⑥ キングダム
- ⑦ グミ/冷やし中華



何者なのか問いつづける

■活動家じゃない視点

「私は一般的な視点を持ち続ける努力をしている」と言ったら、逃げてしまうように聞こえてしまうのだろうか？結婚も出産もしていない私が「未来の子供たちのために」なんて言うことは偽善なのだろうか？

ならば、私は何者なのか？

環境活動に関わるようになってから常に付いて回る疑問は「どの視点で見えるか？」で、何かを起す時この問題に頭を抱えることが多い。

この1年、毎週土曜日に行っている地域プロジェクトのビーチクリーン活動に行くことができなかった。何年も毎週毎週行っていた、もはや生活の一部となっていたビーチクリーン活動に行こうと思う気持ちがある中で作れなかったのだ。なぜか？それは、ビーチクリーンをしている時間の意味と未来に違

和感を感じてしまったから。だからといって、ビーチクリーン活動を一切しなかったわけでもない。行政や会社の自然体験の前には、その意味を話し子どもたちと一緒にクリーン活動をする、積極的に環境問題のディスカッションや研究会に取り組む姿勢は一切変わっていない。でも、行けないのだ。そんなチグハグな1年だった。

経営者として働くのは、雇用されている時より少し自由でストレスは少ない。でも、周りを見ればストレス社会でもがき苦しんでいる人も多いのだからと思う。そんな中で私たちは、「ビーチクリーンに来てほしい、未来を守ってほしい」ととなえ「それは、未来の誰かのため」と訴え続ける。東京の人々に「ゴミは街から海に出ている、街のゴミを拾ってほしい」と言った自分は、東京に行っても落ちていたゴミは拾わなかった。厳密に言うとなんでこんなにチグハグなん

だ。ズーっともがき苦しんだ。たどり着いた答えは「そんな簡単な話じゃない」ということ。「私一人が考えたって解決する問題ではないということ」「全世界で様々な考えを持ってPDCAを回していくこと」「それを何年も続けていくこと」で、世界は昨日より、ちょっといい明日を迎えることができるという。世界を良くすることは、私たちの明日も良くなっていく。意味を問うのではなく希望を持って取り組むこと。何者でなくてもいい。色々な視点の人と一緒に考えることが大切なことに、気づくことができた1年でした。



人と人、人と社会、人と自然環境。すべては繋がっている。

「海洋環境美化事業」

株式会社S・T・K工業では海の清掃活動を効率化する特掃車を開発「All for Ocean」を合言葉に県内のみならず県外でも海水浴場開設準備における砂浜清掃やビーチクリーンへの参加を行っております。防潮堤工事によりゴミの撤出作業が困難になっている場所が増えています。そのような場所や砂浜不整地面での漁具流木等の大きな漂着物の移動が容易に行えます。また、特掃車後方の清掃システムは砂浜表面の細かなゴミの除去を行います。今問題となっている海洋ゴミ収集の救世主です。

また、アップサイクルとしておにぎりチップの製作を行っております。おにぎりチップとは流木を洗浄塩抜きしチップ化、着火剤へ昇華させた製品です。一般廃棄物としてではなく、有価物として使用して頂くこと、海洋ゴミへの関心を高めて頂くのが目的です。

「海洋ゴミと未来」



私自身ビーチクリーン活動に参加するまでは海洋ゴミ問題について考えることはありませんでした。緑に囲まれた田舎で育ち、通学路にある湧き水を飲み、つくしを摘んで食べ、タヌキやカモシカと毎日出会う生活を過ごしていました。大学時代の合宿で漁港の清掃活動をしたことが、海洋ゴミと接点を持った初めての活動です。直接海洋ゴミについて考えるようになったのは、現職に就いてから3年ほどです。

一般企業に勤めている中で社会課題に直接的に関わる機会というものはそう多くはありません。ビーチクリーンにはチームビルディング、コミュニケーション能力の向上、人脈形成など、人間力を高める要素が詰まっています。実際に参加することで自分事化しやすく、社会問題についての素養を身に付けるには最適です。私自身活動を通じて沢山の出会いや価値観に触れ、視野が大幅に広がったと感じております。

問口はビーチクリーンだけでなくどのような場面でもいいます。様々な活動を通じて多くの方が海洋ゴミについて知ること、考えることがまず大事。受動的な学びから、能動的な活動へのシフト。そのようなキックケグくりを我々「みやぎ海岸美化協議会」が行い、沢山の人が繋がればと考えております。宮城県内の団体がより関わりを深め、助け合うことが今一番必要なことと感じております。

みやぎ海岸美化協議会 / 株式会社S・T・K工業
小野寺 壮登 (おのでら まさと)



① 1992年9月8日 ② 宮城県登米市 ③ アーチェリーという専門競技を小学生から開始し、中学、高校、大学、社会人まで続けておりました。高校、大学では主将を務め、大学としては日本一を経験、選手個人成績としては団体3位、個人6位の成績を残しております。大学時代には石垣島の合宿が毎年春に開催され、その際に地域貢献活動として漁港や街の清掃活動を行っておりました。 ④ すべての人の後輩たれ ⑤ ピークパフォーマンス ⑥ ソラニン ⑦ 肉全般、ロールキャベツ

みやぎ海岸美化協議会 広報 / SEVEN BEACH PROJECT
しちがはまつリズム / 総務省 地域理想アドバイザー

鈴木 わかこ (すずき わかこ)

① 1980年11月22日 ② 宮城県七ヶ浜町 ③ インディーズブランドデザイナー ④ できない理由よりできる方法を考える ⑤ 私という運命について ⑦ 焼き海苔

【海を学び海を知る、ラジオ番組の出前授業】

tbcラジオで放送している「学校ラジオ」。
その道のプロである大人から、子どもたちへ学びを届けることを目的としています。
協議会では、仙台市立岩切小学校で「海ゴミ漂流記 海ゴミってどこから来るの?」を
テーマに出前授業を行いました。
まずは“宿題”として、当日の朝、通学途中に落ちているゴミを観察してきたことについて話し
合い、道端に落ちていたゴミがどのようにして「海ゴミ」になるのかを考えました。

観察

どんなゴミ見つけた?



ほくたち わたしたちの身近なゴミ



なんで落ちているんだろう?

その上で「どのようにしたらゴミは減らせるのか?」をグループで話し合い、それぞれ発表を行いました。

宮城の海ゴミの現状と世界の現状

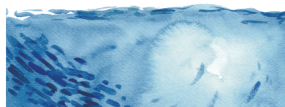


宮城の海ゴミの現状と世界の現状

どうやったら
ゴミをへらせる?

ほくたち わたしたちが

海ゴミをへらすために
できること



「拾うことの大切さを教える目的ではない」の共通認識のもと行った出前授業でしたが
子供たちは、「みんながごみを出さないという気持ちを持つことが大切」と、しっかり答え
を出してくれました。



ラジオな気分
フライデー



海を学び海を知る、ラジオ番組の出前授業

授業の様子を“海と日本プロジェクト”YouTube
チャンネルで映像にまとめてくださっています。

2022年8月26日(金) / 9月2日(金) / 9月16日(金) / 9月30日(金)
昼12時40分頃～50分頃(約10分間)放送

気仙沼 浜わらす

開催回数：13回

2022年の合計参加人数：121名
※年間延べ参加者数



石巻 海さくら

開催回数：13回

2022年の合計参加人数：489名
※年間延べ参加者数



東松島 H×Imagine -ひまじん-

開催回数：13回

2022年の合計参加人数：510名
※年間延べ参加者数



七ヶ浜 SEVEN BEACH PROJECT

開催回数：53回

2022年の合計参加人数：1,238名
※年間延べ参加者数

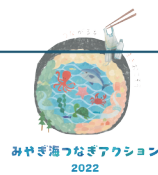


仙台 フマヌマビーチクリーン

開催回数：27回

2022年の合計参加人数：1,968名
※年間延べ参加者数





つながるを、まきおこそう

伝える、つなぐ

東松島 アイザワ水産 海苔漁師 相澤太さん



1 取材中、海を見つめる相澤さん 2 海苔養殖の閑散期には毎年私費で100万円を投じて全国を講演して回っている 3 品種による遺伝子の違いから海苔の生理 学まで勉強し、今でも 研究し続けることを欠かさない 4 海苔摘み作業中の様子 5 相澤さんの代表作「厳選 寒風一番摘み 焼海苔」 6 取材当日も多くの学生達が必死に聞き入りなが らメモをとっていた

豊かな海が失われる前にできること

新鮮で豊富な海産物を育ててきた宮城の海。しかし、その海が今、環境悪化による危機に直面している。私たちが当たり前のように食べてきた魚や貝、海藻類が、近い将来食べられなくなる日が来るかもしれない。海苔(のり)漁師の相澤太(あいざわ とし)さんは強く警鐘を鳴らす。

■ 日本人が魚を食べられなくなる日

「このままだと、十数年後には魚が食べられなくなりそうです」
相澤さんは東松島市大曲浜で海苔の養殖業を営むアイザワ水産の3代目。海苔の品質を競う奉獻海苔品評会において23歳で準優賞、28歳で史上最年少優賞を果たした

風雲児である。名実ともにエースとして販路の拡大や海苔のブランド化に取り組み、大曲浜を「皇室御献上の浜」に導いてきた。豊かな海産物を食卓に届ける担い手として活躍を続ける相澤さんだが、同時に、海の環境に強い危機感を抱いてきた。「海の栄養がどんどん失われて、環境が悪くなっている」のだという。相澤さんが海に出た二十数年前、日本には海苔漁師が約1万人いた。それが今では3000人を

割っている。高齢化といった課題もあるが、漁場環境の悪化が大きな要因だと相澤さんは指摘する。
「海の豊かさは、大曲から雨水とともに運ばれてくる有機物によって育まれます。窒素、リン、カリウムといった栄養素が海中のプランクトンになるんです。近年、瀬戸内海でも、排水規制をしすぎたせいで海産物がうまく育たなくなることが問題になっています。自然の大きな循環に目を向けず、一部分だけを見て人間の都合で操作したことで資源が枯渇しているんです。東北では林業も危機的な状況にあり、排水もコンクリートになって、山の栄養がうまく海に供給されなくなっています。自分が漁師になった頃に比べて、今ははるかに海の栄養が減少しました。このままでは海産物は減る一方で、海外には高く売れるけど日本人は食べられないような未来が来ると思います」

■ 豊かさを次の世代につなぐために

相澤さんは現在、海苔養殖の閑散期である5〜7月に毎年私費で100万円を投じて、全国を講演して回っている。対象は企業や学校、市民団体などさまざまだ。

「海苔のワークショップ」として話をしに行くんですけど、海の話、未来の話ばかり知っています。海の現状を知ってもらうことで、自分の食卓と海がどうつながっているのかが気づいてもらいたい。未来のために、行動を起こさないと、海の豊かさは保てません。自分の子どもや孫たちが、人間的に作った食べ物しか食べられないような未来にしたくないんです」

昨年は、東京で出会った小学5年生の男の子を1週間自宅で預かった。最初は防潮堤の傾斜を手をつかずに登れなかったり、テトラポッドに乗るのを怖がったりしていた少年が、相澤さんと海で存分に遊んだことで帰る頃には見違えるほどたくましくなったという。
「『今は「危険だから」と子どもを自然の中で遊ばせ

ることが少なくなりました。でも本来、人間は自然が大好きです。海で遊ぶ子どもたちの目の輝きを見れば分かる。そうやって自然を身近に感じていなければ、海の環境の変化にも気づくことができないと思います」

■ 未来を変えるにはまず「知る」こと

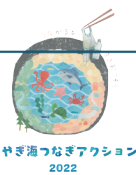
今、宮城県の沿岸部では、海岸の美化活動に取り組み市民団体が気仙沼から山元まで連携し、ビーチクリーンや海についての広報活動、子どもたちの環境学習支援などに取り組み始めている。こうした活動に参加することも、未来を変える一歩になると相澤さんは考える。

「砂浜に落ちているビニールやプラスチックなどのごみをウミガメが食べたらどうなるか。実際に海でゴミを拾うことで、そうした想像力のスイッチが入るのではないかと思います。単純に見た目を綺麗にすることも大切ですが、それ以上に、海と向き合う時間を



持つことで、自分と自然がどんな風につながっているのかを知る機会になるのではないのでしょうか。今の生活を180度変える必要はありません。たった1度変えることで、10年後、100年後の未来が変わります。目の前のゴミを拾う時、それがどこでどうやって作られたものなのかを少しだけ意識して選ぶこと。そうした小さなことをみんながやることで、今ある豊かさを未来につなぐことができると思います」
(ライター・谷津智里)

今の暮らしをほんの少し変えるだけでいい



つなぐるを、まきおこそう

伝える、つなぐ

仙台スクールオブミュージック & ダンス専門学校 松本 純佳さん

伝えたいのは「海への愛」

「ここから、海か…」
松本純佳さん（19）は9月17日（土）、砂浜のゴミを集める「10ヶ所同時ビーチクリーン」にスタッフとして参加するため、七ヶ浜町の淡浜緑地海岸を訪れた。しかし、いざ砂浜に足を踏み入れようとして、少しひるんだ。思い切って歩を進め、砂を踏みしめて風を感じる。
「ああ、そうだ、海ってこんな感じだったな」。
幼い頃に遊んだ海の記憶が、じんわりとよみがえった。



11年ぶりの海

亘理町で生まれ育ち、小学2年生の時に東日本大震災に遭った。自宅は内陸にあり無事だったが、沿岸部にあった祖父母の家は津波に流され、福島海辺に住んでいた曾祖母は帰らぬ人となった。震災の翌日に現場を目にし

て以来、海には近づかないようになっていた。あれから11年。松本さんは現在、学生として、仙台スクールオブミュージック & ダンス専門学校で学んでいる。「大好きなダンスを将来の仕事にしたい」と仲間たちと汗を流す充実した日々、今年、一つの出会いがあった。「みやぎ海岸美化協議会」の久保田靖朗代表（41）が、学校

を訪れたのだ。久保田代表は震災直後から、離れてしまっただと人との距離を近づけようと、毎週のビーチクリーン活動もつと若い世代にも共感してもらえらるもの、参加してもらえらるもの、参加してためにどうしたらいいか、力を貸してほしい」と話す久保田代表の言葉に、松本さんの心が動いた。

ハンドサインを考案

その後の話し合いで、ビーチクリーンを盛り上げるためのさまざまな意見が出され、最終的に「みんながハンドサインをしよう」ということになった。ハンドサインは、手指の形で自分たちのシンボルやメッセージを伝えるコミュニケーションの方法だ。ダンスの世界でも多く取り入れられていて、「ヴォーグダンス」「タットダンス」といった、手の動きを印象的に魅せるダンスもある。ビーチクリーンには老若男女、さまざまな人が参加するから、楽しくて、みんなができる簡単なものがいい。そして、みんなの心が一つになり、海との心理的な距離が近づくようなもの…。

への愛」。自分のように、海への恐怖心がまだまだ拭えない人もいる。それでも、本当は海が好きだ。その気持ちを大切に、みんなが少しずつ前を向けたらいい。さらに松本さんは、イリーポーズを海岸美化協議会の理念である「海つなぎ」という言葉に合わせ、波のように動かし、最後に空に向かって突き上げる動きを考案した。これなら、みんなと一緒にできる。



小さくても自分にできることを

9月17日のビーチクリーン当日、参加者と一緒に海岸のゴミを拾った松本さんは、あまりにも多くのゴミが流れてき、たまっていることに驚いた。「こんなにゴミがあるなんて。みんなの海を綺麗にできないから、これなら私にも、海に近づくことはできない日だったけど、海のことはずっと気になっていた。テレビで震災の話題を目にするにつれ、「自分にも何かできることがあるのでは」と思うようになっていた。目の前のゴミを夢中で拾ううちに、海への恐怖心が溶けていくのを感じた。

同時にビーチクリーンが行われていて、10ヶ所全てで、このサインが掲げられたのだ。「みんなが笑顔で、とても充実した気持ちでした。やってよかった、参加して本当によかった」。

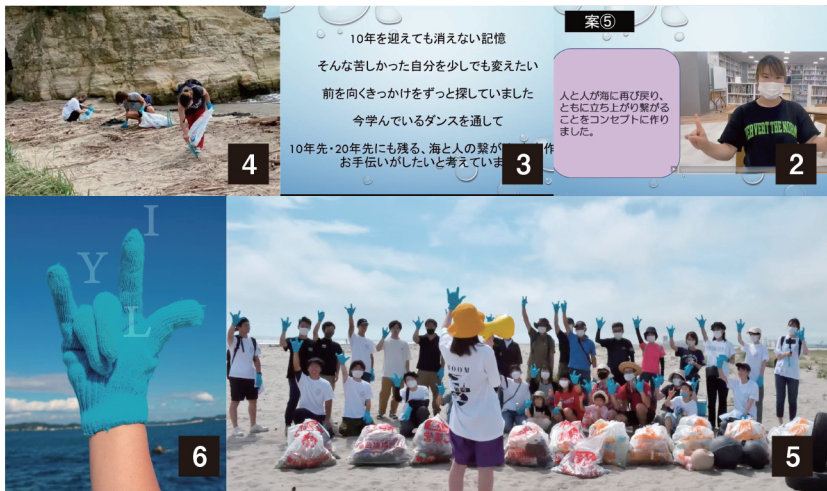
翌月、七ヶ浜の菖蒲田海水浴場で行われた野外フェスのステージで、仲間とダンスをする松本さんの姿があった。また一歩、海との距離が近づいていた。

「ダンスには人の心を動かす力があります。これはすごいことだと思っ。これからはダンスを通じて、みんなのつらい思いを少しでもやわらげて、一緒に前を向いていきたい」。

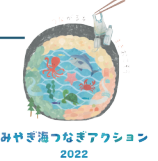
松本さんは、さまざまなハンドサインを調べた。単純すぎても面白くないし、日本では良くても外国では良くない意味のサインもあり、迷いに迷った。そして最終的にたどり着いたのが「イリーポーズ」だった。「イリーポーズ」とは、手のひらを相手に向けて親指と人差し指と小指を立てるハンドサイン。指の形が「I」「L」「Y」のアルファベットを表し、「I Love You」の意味がある。

「これだ」と思った。松本さんが示したかったのは「海

活動の最後に、松本さんが考案したハンドサインをみんなが海に向かって掲げた。この日は宮城県の沿岸部10ヶ所



1 取材中、笑顔でイベント当日を思い出す松本さん 2 ハンドサインはクラス全員で何度も考え直した 3 オンラインプレゼンの時は「自分自身の過去と、未来への思い」を声を震わせながら伝えた 4 10ヶ所同時ビーチクリーン七ヶ浜会場にて参加者と一緒にビーチクリーンをする松本さん 5 各会場でフロダンサーが「ハンドサイン」のレクチャーをした 6 海への「I love you」ハンドサイン



つながるを、まきおこそう

伝える、つなぐ

みやぎ海岸美化協議会 海洋教育部門 / NPO法人 浜わらす 天澤寛子さん

より良い未来は 自分の足元からつくる

東日本大震災が起ったのは、気仙沼にUターンして数カ月後だった。幼い子どもを抱え、ほかの土地に移ることも頭をよぎった。しかし海の恐ろしさ以上に、海が与えてくれる大きな恵みを知っていた。

気仙沼市のNPO法人浜わらすの天澤寛子（あまさわひろこ）さんは今、海の豊かさや大切さを子どもたちに伝える「海洋教育」に取り組んでいる。

海ゴミの問題を身近に

「学校で海ゴミの話をする時、子どもたちも生方もとても興味を持ってくれるんです。実際に海で活動している私たちが伝えることで、どこかで『自分には関係ない』と思っていたことが身近

な問題に変わる。そこにとてもやりがいを感じています」

天澤さんは2022年度、宮城県と「みやぎ海岸美化協議会」が連携して取り組む環境教育学習の講師として、県内各地の小学校を訪れた。地元気仙沼で子どもたちが海と親しむ場を作り続けてきた経験が、さらに大きなフィールドに広がった。

「NPO法人浜わらすの活動として、小中学生の海洋教育を担当してき

ました。沿岸部の子どもたちには海ゴミの問題が浸透してきたように思うし、ゴミ拾いをしたことある子どもも多い。でも内陸部の子どもたちにはそういう機会がほとんどありません。海と山と川はつながっているから、本当はみんなに関わりのあることなんです。それを伝えていきたいですね」と天澤さんは話す。

オール宮城で海と向き合う



1 古里裕美

問題
1日に波が押し寄せる回数は、何回くらいでしょうか？

- 1 260回
- 2 2,600回
- 3 26,000回

4 5

1 地元の海が好きと笑顔で語る天澤さん 2 協議会で作成した海ゴミ学習キット「海ゴミ漂流記」の海ゴミの標本に小学生たちは興味津々 3 授業の中ではクイズも交えながら理解を深めてもらう 4 消波ブロックに集まる海ゴミなどリアルな現状も写真で紹介 5 「海ゴミ漂流記」の下敷き型シート「海ゴミ図鑑」を持って実際に海へ行くことも

オール宮城で海と向き合う

震災後、宮城県内各地で「海と人をつなぐ」活動をしてきた10団体が連携して、「みやぎ海岸美化協議会」が2022年に発足した。大津波により引き離された海と人との関係。震災から数年の間は、海で活動することを一「不謹慎」とする声もあった。でも、いつまでも海と関わらずに生きていくことはできない。海の恐ろしさと同時に、果たさない恩恵を受けてきたこともよく分かっているからこそ、海と向き合う必要があると考えた。NPO法人浜わらすは設立以来、気仙沼の子どものために海での自然体験活動を提供し続けているほか、定期的なビーチクリーンも行っている。しかし、海ゴミは地域を越えて漂着するため、処理にも難しい問題が伴う。それならば、同じ思いで活動する団体が連携し、オール宮城で取り組んでいこう、と始まったのが「みやぎ

海岸美化協議会「海ゴミ」と聞くとビ

一人一人の力が大きな力になる

「実際の海ゴミの標本を観察してもらおうと『これ、傘の柄だー』とか、『これ、畑で使うやつだよ！』とか、子どもたちが元気に声を教えてくれます。自分たちにとって身近なものが実際に流れ着いているのを知ること、『なぜこんなものが海にあるんだらう？』どこからどうやって来たんだらう？」と、深く考えをきっかけられるようになります」

天澤さんは授業を通じて「一人の力は小さくない」と伝えたいという。「海の問題という感じがく大きなことに感じられて、一人では何もできないと思うかもしれない

けれど、今、目の前にある社会は、私たちの思いや行動が集合した結果。一人一人が自分にできることをやっていけばきっと、いい未来になるはずだし、まず自分の隣にいる人を楽しませたり、優しくすることから世界は変わっていくと思う。ゴミ拾いも同じで、まず自分の足元からきれいにしないと、世界はきれいにならない。私たちは無力じゃないし、集まれば大きな波、力になるんだよ、と伝えていきます」

「今は何でも、子どもたちへの期待が大きくなってしまっているけれど、この世界を作っているのは私たち大人。大人が知らなくてどうする、大人がまず率先してやらなくてどうする、と思います。だから大人にも海ゴミのことを知ってもらって、一緒に頑張ろうよ。一緒に頑張ろうよ、と伝えるようにしていきたいですね」

みんなで拾って考えよう!宮城の海ゴミ何キロ?チャレンジ



2022年9月17日、宮城県 北は気仙沼から南は山元町までの10ヶ所で一斉にビーチクリーンをするイベント「みやぎ海つなぎアクション 10ヶ所同時ビーチクリーン」が行われました。各地区に【海へ愛を示すアクション】のレクチャーのためプロダンサーが入り一体感を感じながら60分で1,48kgという結果を出すことができました。また、その様子は各地区をつないでオンラインで発表され、オンラインで自由に観覧して頂きました。

結果報告 **ビーチクリーンした時間 約60分間**

参加人数
391名

ゴミの総重量
1,048kg

豆管の個数
11,636個



オンライン報告会の様子はアーカイブでご覧いただけます。10ヶ所それぞれに異なる海ゴミ事情を抱えています。ビーチクリーン活動の熱気を感じて「宮城の今」を知ってください。



ビーチクリーンを、日常に。

常設して、2年目になるの「ビーチクリーン集積所」は、引き続き七ヶ浜町と気仙沼市の2ヶ所で活用されていきました。昨年同様トングとゴミ袋、豆管ボックスが収納され好きな時間に好きな仲間とクリーン活動する姿が多く見られました。

拾ったゴミのゆくえ

昨年に引き続き、集積所の設置に伴って、大きな課題になったのは「ゴミ処理費用」です。漂流した海洋ゴミは日々、形を変え品を変え海岸に打ち上がります。その他、持ち込まれるゴミの量も夏期はふくれあがります。まず、拾うことの大切さを私たちは伝えてきましたが、本当の課題はその先にあります。誰にもしわ寄せがこない収集活動と処理を行うにはどうしたら良いのか?集積所を設置したことによって、私たち、みやぎ海岸美化協議会はさらなる課題解決への糸口を探っていきたいと思っています。

七ヶ浜町 菖蒲田浜



気仙沼市 日門漁港



掲げた目標へステップアップ—
「ビーチクリーンを日常に」という目標は継続することによって、たくさんの人に浸透し活用されています。



ALIAVE研修 -社会をより良くする・そしてそこから学び合う次世代リーダー育成プロジェクト-

2022年10月から12月までの3ヶ月間異業種混合で1チーム約7名全国総勢200以上が参加日本最大規模の異業種混合型社会課題解決プロジェクトだ。

【答申先】として会長の久保田が登壇し協議会メンバーが【参加者】側とすることで改めて外側から協議会を見つめ直すキッカケにもなった。

Session1~3までのプレゼンは5段階評価で行われ、Session4では採択or不採択が示されるため都内の企業の皆様が本気で【2030年にビーチクリーンを日常にする】にはどうしたら良いのか?をディスカッションし発表した。

協議会メンバーも物事の本質をとらえる力や、対等な立場だからこそ自分の立ち位置を理解し相手のスキルを学びリーダーシップや寄り添った発言をする力を身に着けた。



神奈川研修 -かながわ海岸美化財団の仕組みを学ぶ-

2022年12月21日、かながわ海岸美化財団とディスカッション&フィールドワークをさせていただいた。ディスカッションでは、現在の処理や回収の仕組みを聞きながら宮城県と照らし合わせ解決点を探っていた。その後、ビーチクリーナーでの作業の見学や実際に作業の方と話し、海岸を見て改めて仕組みの大切さを学んだ。



三重・福井研修 -アップサイクル事業-

令和5年2月23日(木)~25日(土)三重県、福井県でのアップサイクル事例を肌感じ、今後の協議会活動へ落とし込むことで事業のブラッシュアップに繋げることを目的に行われた。ものづくりの町鯖江市【内田プラスチック】ではアップサイクル事例サンダラスについて学び、【アノミアーナ】では視察、調査、現地アンケートを元に県への報告と提言書の提出を行っていて、その内容及び結果の共有を行なった。

【プレシャスプラスチック福井】地域で出たプラスチックゴミをリサイクルし、コースターやタイル、カラビナ、ボタンなどを製作。啓発ベースのアップサイクル。

【若狭和田海水浴場】ブルーフラッグ認定海水浴場だが、砂浜には海外の漂着ごみ(韓国、中国、台湾、ロシアなど)が多く見られた。アップサイクルの難しさも感じながら2023年の取り組みに向けた大きなヒントを得ることができた。



宮城県 循環型社会推進課との連携

みやぎ海岸美化協議会
天澤 寛子



宮城県 循環型社会推進課とみやぎ海岸美化協議会が連携し、海ゴミ環境教育学習を実施しました。講師として協議会 海洋教育部の天澤 寛子が、内陸部の小学校にも出向き、出前授業を行いました。

子どもたちは海が見えない場所も、海に繋がっていることを再認識し、漂着ごみの標本にもとても興味をもってくれました。

亀がレジ袋を食べてしまうだとか、インターネットで見た世界しか知らなかった子どもたちが、実際に海で活動しているわたしたちが伝えることで、遠い世界で起こっていることではないことを実感し、決して他人事ではないことを感じたことかと思えます。

SDGsや持続可能な社会という言葉に囲まれながら、そのことを学ぶことが必須になっている子どもたちは十分に理解しています。

しかしながら、今を生きるわたしたち大人はどうでしょうか。子どもたちより環境問題に関して知らないことの方が多いかもしれません。

子どもたちに未来を託す前にわたしたち大人が行動し、「わたしたちも頑張るよ!一緒に頑張ろう!」と背中をみせていくことがわたしたちの役目なのではないでしょうか。

教育育てる「教育」ではなく、共に育つ「共育」でありたいと私自身、強く感じていることでもあります。自身も学ぶことを楽しみながら、子どもたちと一緒に歩んでいきたいです。



2022/10/25
気仙沼市立
中井小学校
5年生 13名



2022/12/2
仙台市立
南光台小学校
4年生112名



2022/11/2
大崎市立
岩出山小学校
4年生 61名



2022/12/15
仙台市立
六郷小学校
3年生127名



2022/12/16
川崎町立
川崎第二小学校
5-6年生 13名



2023/1/20
大和町立
鶴巣小学校
5年生 10名



2023/1/18
石巻市立
寄磯小学校
1~6年生 4名



2023/1/26
仙台市立
北六番丁小学校
5年生 63名

気仙沼 日門海岸 / 七ヶ浜 吉田浜 / 仙台市 深沼 / 亶理 荒浜
宮城県内海岸の漂着ゴミ組成調査結果

宮城県 地方公共団体向け漂着ゴミ組成調査ガイドライン (令和2年6月第2版)に沿って
2022年9月~10月 宮城県内4ヶ所で調査しました。

はたけやま

教えて畠山くん!

みやぎ海岸美化協議会 調査部 / 海辺のたからもの 代表 畠山 紳悟 さん



産業を知らう、自然を知らう。
学びを「じぶんごと」に。

海岸にやってくるゴミは、わたしたちの街の暮らしと産業、自然環境によって大きく変わります。あなたは自分の街をどう変えていきたいですか？

宮城の海ゴミは、わたしたちのゴミでした

問 〓 どこからやってきたの？
海のゴミは海外のゴミも多いの？

答 日本全国場所によって違います。今回調査した宮城の海岸では、ほぼ海外のゴミはありませんでした。

問 〓 実際の海ゴミの重さや長さも含めて調査しました
海ゴミの種類や特徴は、地域で違うの？

答 その地域の暮らしや自然の特徴、ゴミを捨てやすい景観やどうかなどによって違ってきます。

問 〓 海ゴミってそもそも何？
海にどんなゴミが落ちているの？



01 気仙沼市 日門漁港



自然の特徴: 小さい湾
ゴミの量: 少なめ/
産業由来の漁具等

02 七ヶ浜町 吉田浜



自然の特徴: 入り江
ゴミの量: 少なめ/
産業由来の漁具等

03 仙台市 深沼海水浴場



自然の特徴: 仙台湾の中央
ゴミの量: 多め/産業由来と
生活由来が入り交じる

04 亶理町 荒浜 阿武隈川河口



自然の特徴: 川の河口
ゴミの量: 多め/生活由来の
ペットボトル等

オンライン開催 宮城県漂着ゴミ組成調査報告会
行政向け 13:30 - 14:30 一般向け 19:00 - 20:30



みやぎ海岸美化協議会の2022年度の活動報告と、2ヶ月に及ぶ今回の調査結果を発表します。YouTubeでどなたでもご覧いただけます。

エスパル仙台 活動報告展示会

仙台市内 商業施設での活動パネル展

2023年3月、宮城県仙台市にあるエスパル仙台にて3日間行われたSDGs GOOD LIFE フェア内で「みやぎ海岸美化協議会 活動パネル展」を同時開催。3日間で述べ380名の来場者で賑わった。パネル展の他、「きれいな海と豊かな海」というテーマで子どもたちが思いおもいのイラストを書き、漁網アクセサリーづくり体験は32名の参加者で学びと体験の時間になった。どうしても、沿岸部中心の活動にはなってしまうが、市内でこのような試みをすることによって、多くの人に新しい関心が生まれその関心が海へとつないでいくことを改めて実感した。2023年もこの活動を続けていこうと思う。



今日より明日、少し豊かな毎日を。

SDGs
GOOD LIFE フェア

3月24日[fri]~3月26日[sun]

エスパル仙台本館 エスパルスクエア



■ ビーチカンファレンス 被災地沿岸部編 vol.1
～あの日から10年、ここからの10年～



■ ビーチクリーンオンライン報告会
【みやぎ海つなぎEXPO 第1部】



■ ビーチカンファレンス 被災地沿岸部編 vol.2
～あの日から10年、ここからの10年～



■ オンラインカンファレンス
【みやぎ海つなぎEXPO 第3部】



■ ビーチカンファレンス vol.3
東松島 海苔漁師 相澤 太さんから 海の環境について学ぼう



■ ビーチクリーン参加者募集!
【2021/10/31(日) みやぎ海つなぎEXPO】



■ ビーチカンファレンス vol.4
鈴木 玲さん松島 肇さんから 海浜植物について学ぼう



■ いつでもビーチクリーン 集積所設置PR
【七ヶ浜町宮浦田浜】



■ ビーチカンファレンス vol.5
プロサファー和光 大さんから 世界の現状について学ぼう



■ 海つなぎEXPOダイジェスト
【宮城県沿岸部6地域をつなぐイベント】



■ みやぎ海つなぎアクション
2021年活動報告 つながるを、まきおこそう。
【みやぎ海岸美化協議会】



■ 海を学び海を知る、
ラジオ番組の出前授業



■ 1000人が力を合わせて、
子どもが安心して走れる
ビーチを!



■ 10ヵ所同時ビーチクリーン
【ライブ配信 報告会】



■ みやぎ海つなぎアクション
【2022/9/17(土) 10ヵ所同時
ビーチクリーン】参加者募集!



■ オンライン開催 宮城県漂着ゴミ組成調査報告会 2023



オンライン開催
宮城県漂着ゴミ組成調査報告会 2023
4月25日(火) 19:00 - 20:30

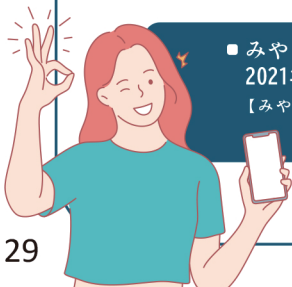
宮城の海は
わたしたちのゴミで汚れた

みやぎ海岸美化協議会の2022年度の活動報告

- 宮城県との連携 海洋教育授業
- 2ヶ月に及ぶ 漂着ゴミ組成調査
- 神奈川県研修 福井県研修報告

視聴はYouTubeから「みやぎ海岸美化協議会」で検索!(アーカイブも視聴可能)

宮城県沿岸部で活動する団体をつなぐ **みやぎ海岸美化協議会**





みやぎ海岸美化協議会公式サイト

<https://www.miyagi-kaigan.com/>



SNS/公式LINE

Facebook

Twitter

Instagram

LINE



協賛



発行元

みやぎ海岸美化協議会

事務局

河北新報社 営業部

TEL : 022-211-1318

MAIL : beach.conference77@gmail.com



staff

Direction : 久保田靖朗

Photo : 協議会メンバーの皆さん

Design&Writing : すずきわかこ (REZAIN)

企画デザイン REZAIN

〒985-0803 宮城県宮城郡七ヶ浜町花淵浜字上ノ山15-2

TEL : 090-2843-1724